

事務事業名		勤労者資金融資事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業																								
政策体系	政策名	0 1 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間																									
	施策名	0 5 雇用の創出と安定		区分																									
	基本事業名	0 2 地場企業人材の育成		単年度繰返																									
根拠法令		大船渡市勤労者資金融資あつ旋規則		※期間欄に開始年度を記入																									
所属	部課名	商工港湾部商工課		【開始年度】																									
	課長名	鈴木 宏延		昭和51 年度～																									
	係名	労政係	電話 0192-27-3111	事務事業区分																									
	担当者	新沼 大介	内線 111	E 一般																									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																									
<p>市内勤労者へ生活・教育・福祉各資金を融資するため、市が東北労働金庫へ資金を預け入れる。東北労働金庫が窓口となり、申請を受理し、協議のうえ市が融資実行の決定をし、東北労働金庫が申請者へ融資を行う。貸付限度額は、生活資金100万円、教育資金200万円、福祉資金100万円となっている。</p> <p>(1)業務内容</p> <p>①東北労働金庫へ原資を預託</p> <p>②東北労働金庫大船渡支店(以下「東北労金」。)にて申請の受理</p> <p>③東北労金および市による審査、融資実行可否の決定</p> <p>④融資実績の報告</p> <p>⑤預託金の返還</p> <p>(2)事業費</p> <p>支出は預託金のみで、年度始めに預託し年度末に満額返還される。</p>				<table border="1"> <tr> <td rowspan="10">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)	0
総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金																										
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源																											
	事業費計(A)	0																											
	人件費	正規職員従事人数																											
		延べ業務時間																											
		人件費計(B)	0																										
		トータルコスト(A)+(B)	0																										

1 現状把握の部(DO)

(1)事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
前年度実績(前年度に行った主な活動) 融資原資の預託及び融資申請の受理、審査、可否決定を行った。	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 融資申請の審査件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 融資申請の審査件数	件	イ		ウ	
名称	単位								
ア 融資申請の審査件数	件								
イ									
ウ									
今年度計画(今年度に計画している主な活動) 前年度と同様									
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市内に居住し、同一事業所に一年以上勤務している者	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 市内常用雇用者(国勢調査より5年に1回)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 市内常用雇用者(国勢調査より5年に1回)	人	キ		ク	
名称	単位								
カ 市内常用雇用者(国勢調査より5年に1回)	人								
キ									
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 勤労者の生活が安定し、福祉の向上が図られる。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
	<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 融資件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 融資件数	件	シ		ス	
名称	単位								
サ 融資件数	件								
シ									
ス									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 福利厚生制度が整い、安心して働き続けることができる。									

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)	
	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	25,000	35,000	25,000	25,000	25,000	25,000	
	事業費計(A)	千円	25,000	35,000	25,000	25,000	25,000	25,000		
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	80	80	80	80	80	80	
		人件費計(B)	千円	320	320	320	320	320	320	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	25,320	35,320	25,320	25,320	25,320	25,320	
⑤活動指標		ア	件	4	2	5	2	2	2	
	イ									
	ウ									
⑥対象指標	カ	人	10,596	10,596	10,596	10,596	10,596	10,596		
	キ									
	ク									
⑦成果指標	サ	件	4	2	5	2	2	2		
	シ									
	ス									

事務事業ID	0397	事務事業名	勤労者資金融資事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	事業開始当初の勤労者に対する民間の融資条件は、現在よりもかなり厳しい状況にあったため、なかなか生活資金等の融資を受けられなかった。このことから、昭和51年度より市が金融機関に原資を預託し、融資の便宜を図った。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	現在では、民間で取り扱っている融資制度の融資条件がかなり緩和されてきており、市制度よりも利率が有利なものが出回るようになってきている。また、政府系金融機関でも低利率の融資制度を取り揃えているほか、融資実行までの期間等についても民間の方が早くなっている。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	東北労働金庫より、制度の見直しについて通知があり、平成28年度より住宅建設資金融資制度を廃止し、新たに福祉資金融資制度を新設することとした。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ▽ 理由・内容 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 勤労者に必要資金を融資あつせんすることにより、生活の安定に寄与できる。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ▽ 理由・内容 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 市内の勤労者に対し、安定した利率で融資あつせんすることができるものであり、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ▽ 理由・内容 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 勤労者の生活の安定及び福祉の向上に寄与する事業であるため、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない ▽ 理由・内容 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 平成28年度に融資の内容や条件等を見直したところではあるが、新規申込件数は減少しているため、勤労者のニーズに合わせた融資の内容の見直しや制度の周知強化により、成果の向上余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある ▽ 理由・内容 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 現在、この制度を利用している人がいるため、影響がある。また、現在の民間の融資制度での代替も想定されるが、今後、以前のように民間での融資条件等が厳しくなった場合、市の融資制度の存在価値が出てくるものと思われる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 預託金は、年度末に返還されるものであるため削減する余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) 勤労者資金の預託に関する事務は最低限のものであり、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ▽ 理由・内容 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 融資対象者を一般勤労者としているので公平性がある。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																					
2 改革改善(縮小・統合含む)	<table border="1" style="text-align:center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×	平成28年度に融資内容を見直したところではあるが、市の融資制度より利率が有利な商品があることなどにより、新規申込件数は減少していることから、東北労働金庫と連携し、制度周知の強化を図るほか、利用しやすい制度になるよう見直しを検討する。
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																							

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
2 改革改善(縮小・統合含む)	勤労者の生活の安定と福祉の向上を図るために有効な事業であるが、利用件数が低調であるため、東北労働金庫と連携し、引き続き、制度の周知に努めていくとともに、より利用しやすい制度への見直しを検討する必要がある。